

## 阪神大震災と復興支援西成市民協議議会

### 1月17日 午前5時46分 阪神大震災 発生

【西成区の被害：半壊 196 世帯、一部損壊 574 世帯】

- 西成支部は一人暮らし高齢者や障がい者の安否確認を実施し、半壊となった被災者のための避難所を解放会館や住宅集会所に設置し、生活再建への支援を行う。
- 被災地への支援に取り組む
  - ・ 障害者団体の要請に応じて、バイクで障害者の安否確認のために神戸に出かける。
  - ・ 緊急募金と物資のカンパを呼びかけ、461 万円のカンパと 6 トンの物資が集まる。

被災地の様子



毎日新聞社提供

1月22日夜 部落解放同盟大阪府連の呼びかけの緊急支援行動で浪花の青少年グラウンドに集まり、大渋滞の中を神戸に向かう

1月25日 「阪神大震災復興支援西成市民協議会」が被災地の高齢者や障害者への“デイサービス活動”を始める。

- 西成支部や西成区ボランティアバンク、連合町会などの呼びかけで、「阪神大震災復興支援西成市民協議会（松岡徹代表）」が発足する。
- 被災地の高齢者や障害者を車で迎えに行き、西成でお風呂や食事サービスを提供し、また被災地へ送るというデイサービス活動を実施する。

被災地で炊き出しのボランティア



炊き出しの荷物を運ぶボランティア

1月26日 靴業界の業者団体などとともに緊急対策会議を開催

- 西成の製靴業者の8割が靴底の原材料を神戸に依存しており、被災で大打撃を受け、西成の靴業界はピンチに陥る。

1月27日 近畿通産局と大阪府商工部、大阪市経済局への要請行動を実施

2月11日 200人のボランティアが西宮市立総合福祉センターへ炊き出し行動を、また手話ボランティアを実施

「西成市民協議会デイサービス活動」の看板を設置

- 西宮市のヘルパーさんや看護婦さんが西成市民協議会のピラを届け、支援を求める高齢者や障害者が次々と西成へ電話をかけてきた。また、西成地区から西宮に嫁いだ女性は、このピラに感動、次々と障害者や高齢者への声かけを行う。

- こうしたデイサービス活動は3月31日まで続けられ、800人超す人々を西成に迎え入れた。

**3月1日 「西成区緊急防災計画」の提案を発表し、緊急署名を呼びかける**

- 広域避難所、防災公園、不燃化促進区域での建替支援制度、防災自治組織など7項目の西成区緊急防災計画の提案を発表し、緊急署名を呼びかける。

**3月29日 2万人以上の署名を大阪市市民局安全対策課へ提出**

- 西成公園のリフレッシュ計画などは、この時の提案が実を結ぶ。
- ただ、被災者への市営住宅の提供にいち早く協力しましたが、「希望者は少数で、部落や西成への差別意識の根強さを痛感させられました」。

---

出典： **一変身、5年の軌跡— 西成の部落解放運動**

発行日：1998年7月15日 発行：部落解放同盟西成支部